

# 最大被災地だからこそ見てほしい

## 大川小・映画「生きる」宮城で上映開始



舞台あいさつに立った只野さん(右)と吉岡弁護士

石巻市大川小の津波訴訟原告遺族らの歩みを追ったドキュメンタリー映画『生きる』大川小学校津波裁判を闘った人たちが17日、仙台市青葉区のフォーラム仙台で公開が始まり、原告の只野英昭さん(51)らが舞台あいさつした。

映画は真相究明を求めて民事訴訟に踏み切った経緯や、子を失った親たちの心情に迫っている。只野さんは「わが子がなぜ目の前の山に避難せずに川に向かったのか。責任逃れをする右巻市教委の虚偽の説明では納得できなかった」と話した。

上映時間は約2時間。遺族が記録のために撮っていた映像を中心に構成され、

只野さんの映像もある。只野さんは「大川小の悲劇を繰り返さないためにも、最大被災地の宮城県民に見てほしい」と話した。

あいさつには原告側代理人の吉岡和弘弁護士(仙台弁護士会)も同席した。「現場を初めて訪れて避難先となる裏山を確認した時、これは人災だと考えた。遺族を支えようと思った」と語った。

18日は寺田和弘監督、19日は別の原告らが舞台あいさつする。フォーラムでの上映は23日までで、24日からは109シネマズ富谷(富谷市)で公開される。

東北ではフォーラム福島(福島市)で17日、一関シネプラザ(一関市)で24日、フォーラム山形(山形市)で31日から公開される。